

平成29年度学校経営の重点

教育目標

変化の激しい時代の社会を生き抜き豊かな人生を送るために、自立して未来に挑戦する態度を育成し、その為に必要な「確かな学力」「豊かなこころ」「健やかな身体」を身につけさせる。

自己評価について

達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E

教育方針

地域ボランティア活動をはじめとした様々な体験活動によりふるさとを愛する心を育み生徒に自己有用感(自信と誇り)を持たせるとともに、基礎学力の定着や人間会計のスキルの習得、ルールやマナーの遵守、モラルの構築など社会性を身につけることで、適切な勤労観、職業観に基づく進路実現など一人ひとりの自己実現に結びつける。

Table with 6 columns: 番号, 分掌, 重点目標(評価項目), 実践項目・取組内容, 自己評価, 達成状況と次年度に向けて, 学校関係者評価委員の意見. Rows include 1 (円滑な校務運営), 2 (総務部 地域、中学校等への広報活動), 3 (地域、育友会、同窓会等との連携), 4 (教育課程・教務規定), 5 (教務部 効果的な学習指導), 6 (学習環境の整備), 7 (基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成), 8 (生徒指導部 生徒の自己有用感・達成感の育成), 9 (安全、安心な学校をつくる), 10 (インターンシップの活用・充実), 11 (進路指導部 進路ガイダンスや企業見学会・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実), 12 (ハローワークや企業との連携強化), 13 (就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す), 14 (保健部 保健安全管理・保健教育の充実), 15 (保健安全課題に組織的に対応する), 16 (図書部 図書室の環境整備), 17 (図書部 図書室活用・読書活動の推進).

番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
18	人権教育部	生徒が自分自身を大切にすること。	ボランティア活動等の体験を通じて自己有用感を養う。	A	①災害現地ボランティア活動や地域ボランティア活動に積極的に参加し、自己有用感を養った。 ②来年度も継続してゆきたい。	●生徒たちが自分自身を大切にできないことは、自分の夢を持ち、それに向かって燃焼しきれないことだと思いますので、一つ一つ自信を積み重ねていくのが近道でしょうね。自分を大切にできなければ、人も大切にできませんので克服していきたいですね。 ●学校評価Aに対し、職員の評価はCとなっており、学校の考え方や、職員の考え方に開きがあるのではないかと。
19		生命の尊厳を感ずる。	あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にすること。	A	①誰しもが障がい者になり得ることを解させ、命の大切さを訴えた。 ②HR時間以外にも、教科指導・特別活動など、随時命の大切さを伝えた。	
20		人権尊重の基礎を固める	あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	A	①障がい者問題を扱い、「知らない」ことを一つ一つ「知る」ことの大切さを伝えた。 ②来年度は、外国人問題を中心に、自他の人権を考えた。	
21	ボランティア部	円滑なボランティア活動の実施	ボランティア活動の予定を職員全員で共有し、生徒にも事前に予告することで計画的に実施する。	A	①地域ボランティア活動の予定を計画的に実施することができた。また、募集用紙もデザインを新しく、積極的に募集することができた。	●Aの評価が正しいと判断します。 ●全国にその名を知らしめ、自らも人生における最高の体験を経験し、必ずやこのボランティア精神は西脇北校の未来に役立つ、多くの人たちに感謝されます。大人になっても忘れることのないように常々言葉で言い聞かせてください。
22		災害ボランティア活動への積極的参加	東日本大震災現地ボランティア活動を始め、災害被災地に対する支援を積極的に行なう。	A	①東日本大震災現地ボランティア活動と九州北部豪雨現地ボランティア活動を2回実施し、積極的に支援を行うことができた	
23		ボランティア活動における広報の充実	生徒が取り組んだボランティア活動の様子をホームページ等に掲載し、広報活動を充実させる。	B	①ボランティア活動の様子をホームページに掲載することができたが、さらに次年度にむけて内容を工夫し、継続的に発信していく必要がある。	
24	情報教育推進委員会	情報機器を利用した授業づくりの推進	①普通教室や特別教室でコンピュータがいつでも利用できる環境を整備する。 ②情報処理室で全教科が授業展開できるようにシステム設定やソフトウェアの導入を推進する。	A	①各階にTVとPCを設置することでICTを活用することができた。 ②要望のある授業では授業展開することができた。	
25		タブレット端末利用の推進	①職員がタブレットの操作方法を理解する。 ②タブレットを利用して授業ができるように推進する。	B	①職員にタブレットを操作する機会があまりなかった。 ②要望のある授業では授業展開することができた。	
26	絆づくり推進委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	①地域協働作業として鞆織りを推進する。 ②6月、11月に花いっぱい運動を実施する。 ③災害や地域のボランティア活動に参加する。	A	①鞆織りにおいて地域の方々や協力して製作することができた。 ②1年次生全員で、近隣の公共施設やこども園に花を配達し、こども園では園児と交流することができた。	●鞆織り、花の配布等、地域にとっても素晴らしいことを組織的に実施できたことは、生徒教員の結束の証明であったと思います。
27		生徒と教員の交流機会を創造する	①生徒の勤務先の事業所に訪問し様子をヒアリングし、キャリア形成を支援する ②北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。	A	①夏休みの期間を利用して職員が、生徒のアルバイト先やインターンシップ先に訪問し、就業の様子を把握することができた。	
28		外部機関との間に交流機会を創造する	①「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用することや職員の研修会、生徒向けの講演会を実施する。	A	①1年次生を対象に自殺予防に生かせる教育プログラムを活用した授業を実施した。また、職員や保護者を対象にした、自殺予防の研修会を実施した。	
29	特別支援教育推進委員会	特別支援教育の充実	①実態把握・・・療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握をする。中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しては担任や教科担当者よりリストアップしてもらい委員会で把握する。 ②支援が必要な生徒に対して、学年を中心とした職員、保健部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図るとともに、本人と保護者と連携を図り個別の支援計画を作成する。 ③適宜、委員会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①、②については達成できた。③については、職員研修会を実施して具体的な対応等、共通理解が必要な案件や現在も検討している案件がある。今後も研修会や委員会にて共通理解を深めていく必要がある。	●小学校もそうですが、支援が必要な生徒(発達障害など)への対応や支援について中学校関係にも情報提供しただけならば有難いと思います。(できないということも発信していただけたらと思います。) 中学校における進路指導においても反映させていきたいと考えます。
30		支援が必要と思われる生徒に対する進学・就労支援	中学時の担任や市町役所福祉課、支援相談員等との連携や必要に応じて特別支援学校のセンター機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得たり、専門家を招聘して、特別支援教育に関する専門性向上のための職員研修会を実施したりする。また、就職希望者で職業訓練等の希望者には、兵庫障害者職業センターへ行き、検査を受けその判定結果についてハローワークにてケース会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。	A	個々の実態に応じて関係機関等と連携することができた。今後も継続して関係機関等と連携や助言を得て、対象生徒が自立できるように支援していきたい。	
31	事務室	環境負荷軽減の推進	①光熱水費の節約 ②環境にやさしい物品の購入	B	①光熱水費の節約は電機以外は達成できた。引き続き光熱水費の節約に向けて職員に周知します。 ②環境にやさしい物品の購入も概ね達成できた。	●これまでの学校評価委員会にも出席していただきましたが、校長先生、教頭先生はじめ先生方や事務職員の方々の接遇や電話対応は実に丁寧であり穏やかで誠実である印象が強いです。地域に信頼され、愛される学校づくりの原点だと思います。Aの評価が欲しいです。 丁寧な対応ありがとうございます。
32		校内環境も改善・美化の推進	①施設・設備の点検、修理 ②樹木の剪定	B	①施設・設備の点検修理は予算範囲内で可能なものは実施できたが経費のかかる内容に関しては執行できなかった。引き続き目標達成に向けて努力いたします。 ②樹木の剪定は概ね達成できた。	
33		接遇の推進	①丁寧な窓口対応 ②迅速な電話対応	A	①丁寧な窓口対応は概ね達成できた。 ②迅速な電話対応は概ね達成できた。	